



JAPAN URBAN DESIGN
INSTITUTE

都市環境デザイン会議

東京都渋谷区広尾1-10-4
越山L Kビル内 150
TELEPHONE 03-5420-5995
FACSIMILE 03-5420-5996

JUDI NEWS

008 October 20,
1992

発行者
都市環境デザイン会議 事務局

●都市環境デザインフォーラム・関西より	●事務局より
都市環境デザインフォーラム・関西の概要……………1	関東4ブロック第1回合同例会報告……………5
記念講演<鳥瞰する都市とデザイン>……………2	長野“交流プラザ”と全国ブロック幹事会の開催……………5
基調レクチャー<都市環境のデザイン>……………2	代表幹事会から……………5
セミナーI 調査・理論編……………3	関西ブロックの活動状況……………6
セミナーII プロジェクト編……………3	お知らせ……………6
全体講評……………4	
パネル展示会場……………4	



都市環境デザイン フォーラム・関西 の概要

1991年5月11日、都市環境デザインに関心をもちさまざまな分野の人々が集い、〈都市環境デザイン会議〉が結成されました。それ以降、各地域で都市環境デザインの向上に関する活動が進められてつづいています。

関西ブロックでは、都市環境デザイン会議設立一周年を記念して、〈都市環境デザインフォーラム・関西〉を7月10日から12日にかけて開催しました。これは関西ブロックの初の大型事業でもありました。

開催の目的は以下の3点にありました。

- ① 会員の相互交流
- ② 都市環境デザインに関する情報の交流
- ③ 会議の存在のPRと会員の拡大

このフォーラムでは〈プロジェクト展示〉と〈セミナー〉のふたつの催しが行なわれました。

〈プロジェクト展示〉では、会員の作品や都市環境デザインに関する考え方をパネル化し、3日間展示しました。出展者は50名、パネル数は133枚にのぼり、パネルはフォーラムの記録として、1冊の本にとりまとめました。また、このプロジェクト展示は、神戸その他でも行なわれます。

〈セミナー〉はフォーラムの初日に開催しました(プログラム参照)。このセミナーには、会員に加えて、自治体や企業で都市環境デザインにかかわる方々、それに学生が参加し、参加者総数220名と盛会でした。

会員による手作りのフォーラムであったわけですが、後援、協賛をいただいた団体の支援がなければこのような成功をみなかったものと思われま。この場を借りて感謝の意を表したいと思いません。

1992年7月10日 都市環境デザインフォーラム・関西/プログラム 会場：大阪ビジネスパーク(OBP)

総合司会 北条蓮英(㈱アーバンプランニング研究所所長) NEC-C&Cプラザ

開会のあいさつ 10:00	鳴海邦碩(大阪大学教授)
記念講演 10:15~11:15 鳥瞰する都市とデザイン	石原 正(鳥瞰図絵師)
基調レクチャー 11:15~12:00 都市環境のデザイン	榊原和彦(大阪産業大学教授)
一食 食一	
セミナーI: 調査・理論編 13:00~15:00	
テーマ1 都市景観の計画・誘導の実践	報 告: 吉田 薫(COM計画研究所総括研究員) コメンテーター: 山崎正史(京都大学工学部建築学科助手 京都市立芸術大学講師)
テーマ2 住民参加のまちづくり	報 告: 後藤祐介(㈱ジーユー計画研究所所長)
テーマ3 都市の森から森の都市へ	報 告: 丸茂弘幸(関西大学教授)
一コーヒープレイク	報 告: 宮前洋一(総合計画機構)
セミナーII: プロジェクト編 15:15~17:15	コメンテーター: 中瀬 勲(兵庫県立人と自然の博物館教授)
テーマ1 ハーバーランドにおける複合再開発	報 告: 小林郁雄(㈱コー・プラン所長)
テーマ2 都市とランドスケープ	報 告: 安田丑作(神戸大学工学部建築学科助教授)
テーマ3 現代集落としての戸建て住宅地	報 告: 長谷川直弘(㈱都市環境計画研究所所長)
	報 告: 加藤春樹(神戸市土木局公園緑地係長)
	報 告: 江川直樹(㈱現代計画研究所大阪事務所長)
	コメンテーター: 田端 修(大阪芸術大学助教授)

プロジェクト展示

7月10日・11日・12日
プラザアトリウム1F

都市環境デザイン会議会員の仕事、作品等をパネル・模型・報告書・ビデオ等によって紹介。まちづくりの第一線の姿を展示。

全体講評 17:15~17:30

材野博司(京都工芸繊維大学教授)

記念講演

〈鳥瞰する都市とデザイン〉



講演する石原氏

記念講演の講演者にと石原正氏を思い付いたのは今井祝雄氏（造形作家・当会会員）の卓見でありました。

石原氏本人の話しでは、講演の機会は多いけどこの種の専門家を相手に話すのは始めてだとのことでした。それだけに、聴衆にとっては誠に耳新しい世界の話であり、氏の仕事の進め方、そこから得た都市を識る眼力には教えられるところが多かったようです。

石原氏は自らを鳥瞰図絵師と名乗っておられるように、千里ニュータウンの詳細な鳥瞰図でまず世間をアツと言わせ、その後大阪万国博の会場、京都、奈良、大阪、神戸、ニューヨーク、マンハッタン（非公開）等々、数々の都市の鳥瞰図を作成、自ら印刷し、出版されてこられました。その制作過程が当日の話しの主題で、数々のエピソード、苦労話はユーモラスで会場を沸かせましたが、そこには同時に、鬼気迫る職人氣質の執念が感じとれました。例えば、石原氏の描かれた図の中の木一本、一本、街路樹も林も森も含めてその本数、樹種までが正確に表現されている。マンハッタンの街路に信号待ちしている車の台数も

正確で、5番街とパークアベニューの交通量の違いもそこには正確に表現されているといった具合です。石原氏の先達であると氏自身が名をあげられる吉田初三郎、ヘルマン・ボルマン等との表現とはその記録の精密さにおいて格段の差があります。虫瞰の目を持った鳥瞰図絵師が石原氏であります。

石原氏がこれらの都市から驚きを持って読み取られたものは、年を経て継承され、積み重ねられてきた都市の「文脈」であります。この文脈を読み取り、そこに我々の時代を積み重ねていくという自覚こそが、我々の仕事の核心を為すべきものであることを氏の仕事は我々に訴えているのです。

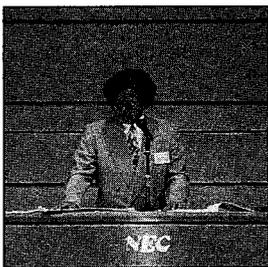
氏は自らを「私は都市のデザイナーではない。都市の記録者です。」と結ばれたが、氏の記録された都市は実在の都市よりはるかに美しく表現されています。そこにはすでに、氏によって示唆された都市のデザインが実現しているように思われるとの会場からの発言がありました。現実の都市は、石原氏によって記録された自らの姿に近づく努力が求められているということになります。

報告者 井口勝文

（株）環境開発研究所

基調レクチャー

〈都市環境のデザイン〉



講演する榎原氏

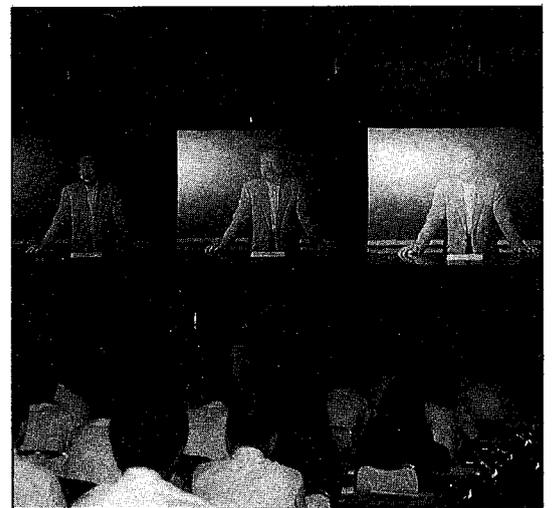
まず、都市環境をめぐる課題をまとめた。①「大環境」「中環境」「小環境」と分けたときの課題、②都市活動・都市社会との関わりから生まれる多様かつ相克する課題の克服、③都市環境に見出すべき「価値」、④個別的な環境形成手段をもって保つべき都市環境の「全体性・総合性」、⑤都市環境の保全・形成を担う多様な主体の役割分担、⑥都市環境を保全・形成・制御する仕組み・仕掛け、⑦都市環境デザイナーの役割、などを述べた。

次に、プロジェクト展示で紹介された事例を、都市環境デザインの6つのファクターをキーにしてレビューしながら、都市環境デザインの領域が広く広がりつつあることを述べた。キー・ファクターとは、①何をデザインするか（都市環境デザインの対象）、②デザインの対象をどう認識・把握するか（都市環境の調査・分析・把握）、③何をを目指すのか（都市環境デザインの理念・コンセ

プト・目標）、④何をもちてデザインするか（都市環境デザインの手段）、⑤誰がどうデザインするか（デザインの主体・組織・ネットワーク/デザイン手法・デザインプロセス/合意形成・意志決定）、⑥デザインを誰がどう実現するか（都市環境形成の主体・組織と実現方法）、である。

そして、社会性のある都市環境デザインをめざすことが必要であることを指摘し、その内容あるいは課題として、①思想（あるいは倫理）に裏打ちされた環境デザインを押し進め、そのための運動体として都市環境デザイン会議を捉えること、②都市の歴史、自然、景観に対する社会的責任を果たすべきこと、③教育の課題（学校教育・社会教育としての環境教育、大学等における環境デザイン教育、関連技術者・行政担当者の再教育、リカレント教育など）、④市民、企業市民との連携、⑤地球的視点からの都市環境形成と都市環境デザイン、を挙げた。

報告者 榎原和彦



セミナーⅠ 調査・理論編



総合司会を務める北条氏

報告者 北条蓮英

セミナーⅠ「調査・理論編」では、JUDI会員3人の報告と、それぞれに対するコメンテーターからの講評を受ける手順で進められた。

まず、テーマ1「都市景観の計画、誘導の実践」では、吉田薫氏（COM計画研究所）から、「都市景観がなぜ、重視されるのか」、「景観形成の方策」について「アイデンティティを探り創造する」「ルールとシステムづくり」「行政の支援、誘導施策」の提起がされた後、氏の関わった実践事例、神戸新開地本通りモール化事業、北梅田地区（茶屋町、鶴野町）まちづくりについてスライドで紹介された。これに対し、山崎正史京都大学建築学科助手から、景観形成における規制のルールと創造的ルールについてコメントがあった。

次に、テーマ2「住民参加のまちづくり」では、後藤祐介氏（ジューユ計画研究所）から、神戸市まちづくり条例に基づいて、氏が地元で実践中の3つの地区（岡本、深江、新在家）の報告が

なされた。同じ条例でも、地区特性による活動内容のちがいが紹介され、「住民参加型まちづくりの効用」「プランナーにとっての効用」「住民参加型まちづくりの今後の展開に向けて」の課題が提起された。これに対し、丸茂弘幸関西大学助教授からは、過去に氏が実施した、住民参加調査の知見にもとづくコメントがされた。

テーマ3「都市の森から森の都市へ」は、先の2テーマとはやや異なり、原論的報告がなされた。宮前洋一氏（総合計画機構）は、「森の社会」は〈循環〉〈共生〉〈成熟〉社会であるとの認識にたつて、「森と都市との歴史的関係」を整理し、「都市の森づくり」について〈制度〉〈意識〉〈論理〉の3つの側面からの限界性を指摘する。「森の都市づくり」に向けて、〈Forest Front City〉の概念が提起された。中瀬勲兵庫県立人と自然の博物館教授から、生態学的観点からの総括的なコメントがなされた。



セミナーⅡ プロジェクト編

小林郁雄氏は、当初から計画づくりに参画した「神戸ハーバーランドにおける複合再開発」について報告した。神戸都心の複眼化、海につながる文化都心創造を目標として23haの敷地に4つの百貨店や高層住宅をふくめた総延床面積55ha（92年10月現在）に達する超大規模事業である。大規模かつ近接する多数の建築物による高密・圧迫感やデザインの統御の欠落、またウォーターフロント立地を生かし切れない外部空間デザインなどの問題が指摘され、それは企画立案からオープンまでの期間が7年弱という超スピード開発に帰因するという所感が述べられた。たしかに近年、あふたと計画され、出来上がっていく大規模プロジェクトが多いが、それら用地は都市全体にとって貴重な資源であり、綿密な計画性・プログラムのもとに利用・更新が進められねばならない。すぐれた都市デザインの全面的な開花にはぜひとも必要な条件である。

長谷川弘直氏からは、都市的環境や建築物と緑・植栽デザインがどのように絡み合っているかを示す作品や在来事例などが、スライドによって紹介された。これを見るだけでも会場にやってき

た値打ちがあるといえるような、勘所を押えた美しい画面で、会場からはきれいな所を撮り過ぎているといった意味の発言があった。たしかに都市環境のデザインの現実には混乱に満ちたものであるといわねばならない。そういう観点からするとリアルな視覚から逃避したかに見えるが、ランドスケープデザインには「地獄の中の極楽であり、同時に極楽の中の地獄」という一面がある、という報告者の指摘が印象に残る。

江川直樹氏は、戸建住宅地設計のなかで提案した「協空間」について報告した。それは路地の形をとり、あるいは広場状の空間ともなるが、居住者が所有・管理するコモンの空間をパブリックに開放するという考え方であり、これによって周辺住民を含めたコミュニティ形成を進めるとともに、整った町並みづくりに貢献しようとするものである。都市環境デザインの水準向上をはかる上で、望ましい環境の質を言葉に置き換える、このようなデザインポキャブラリイの開発とその実態化は、良好な市街地や都市環境を一般化していく有効な方法であるといえよう。

報告者 田端 修

全体講評



講演する材野氏

報告者 材野博司

「多様でありながら、深い」。これが今日のフォーラム全体の印象である。

今迄、ジャーナリスティックな世界での、時代感覚の鋭い、幅の広い活動は目にした。一方、研究の世界で深く、専門性に根ざした場に接してきた。しかし、この都市環境デザイン会議での、各一線の会員からのアプローチの深さとその洞察力、そして、各々の会員が、建築、土木、造園を含む多様なデザイン分野にわたる間口の広さ、この両方を兼ね備えたエネルギーは、過去に類を見ない、新しい集団の胎動を感じさせる。

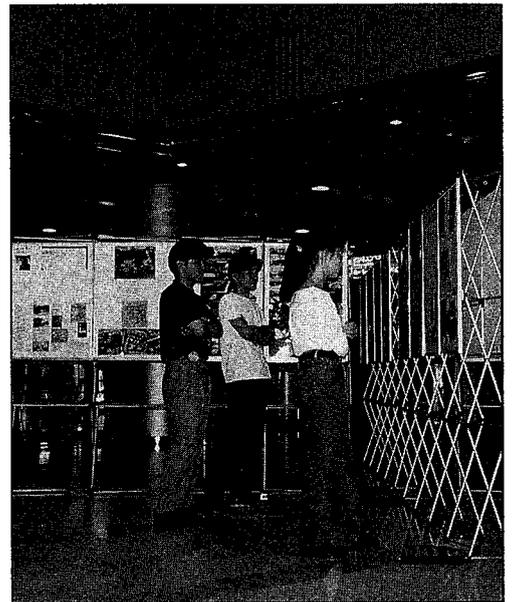
今日のフォーラムを通して提示されたような豊かな都市環境デザインが生まれ出るには、各々の会員が相当の無理をしながら頑張ってきた感が強い。特に事業化のプロセスにおいてデザインが参画するのは実施設計の直前であり、計画の初期段階からの参画を含めて、都市環境デザインのための新しい機構づくりが求められていると感じた。

また、事業における景観やランドスケープ等アメニティ環境のためのエネルギー配分がまだまだ小さく、それらが都市環境デザインの軸軸にすえられるべき時期が来ているのであらうとも感じた。

次に、景観を含めて豊かな都市環境を形成してゆくには、各プロジェクト間の調整と全体の調和がある程度は求められるが、それが固定的な規制にならずに、ソフトな誘導として機能するシステムの必要性が改めて確認された。

冒頭に記したように、この多様で深い専門家集団が、その専門性を超えて、協同し合った時、どんなにか豊かで、それでいて、今迄にない新しい都市環境デザインが生まれるかは測り知れないものがある。そして、この会議が常にオープンで社会との関わりを求めつつ、展開する機構であることを会議の一員として願うものである。

パネル展示会場



関東4ブロック 第1回合同例会 報告

10月1日午後7時より東京・新橋のサロンYUでニューヨーク在住のBarbara Sandrisser氏(建築・景観計画家)による‘Beyond Words(言葉を越えて)’と題する講演が参加者31名(内会員24名)を得て行われた。日本の伝統工芸や民家建築、独力で米人女性が建てた家等の事例に見られる繊細な美的特質が言葉によらない直観的な洞察や場所に対する感覚から発想されたものであることを重視し、理知的な思考に基づく言葉や図式に表現されたコンセプトや方法論に依存しがちな現代の環境デザインのあり方を問い直そう、という論旨だった。これに対し、実務的に見て第三者への説得力の問題はどう考えるか等の意見交換が行われた。例会の後半は懇親会となり活発な交流の場が形成された。今後の予定は以下の通り。他ブロック会員、非会員の参加も歓迎します。

□第2回例会

講演: Euro Disney Resort と Euro-scape
講師: 窪田陽一(埼玉大学工学部建設工学科)
日時: 1992年11月12日(木) 午後7時~9時
会場: サロン・集&YU

〒105 東京都港区西新橋2-13-6
ミタニビル3F

Tel: 03-3504-2387

Fax: 03-3593-1374

地下鉄虎ノ門駅又はJR新橋駅から徒歩5分

費用: 会員3000円、非会員5000円(資料代込)

□第3回例会

講演: ヨーロッパの河川リゾート

講師: 天野光一(日本大学理工学部)

日時: 1992年12月10日(木) 午後7~9時

会場及び費用は未定

長野“交流プラザ” と全国ブロック 幹事会の開催

昨年度の東京例会にて、長野オリンピックに備えて環境デザインがどのように検討されているか、どのようにしていかなければならないか等といった議論がありました。当初は、JUDI主催で長野フォーラムを行う予定でしたが、地元の意見や協力をいかに仰ぐかについても協議しました。その結果、主催は社団法人21世紀ニュービジネス協議会とし、JUDIは協力者というかたちにおさまりました。門前町として栄え、美しい自然が残されている地域での国際的イベントに対し、新しい開発事業のあり方が今後の都市環境デザインに問題を投げかけるものだと思いますので、皆様の積極的な参加を希望いたします。

日時: 1992年11月25日(水) 13:30~

場所: ホテル長野国際会館

テーマ: 環境問題

長野市において、“交流プラザ”に対する協力を行うことになりました。この機会に、全国ブロック幹事会と交流親睦会を行いたいと思います。従いまして、各ブロックでご意見のある方は担当ブロック幹事までお申し出下さい。また、会員の皆様でブロック幹事会への参加を希望なさる方は、一応オブザーバーの立場になると思いますが、ご参加下さい。

皆様の熱っぽい意見を期待いたします。

・全国ブロック幹事交流親睦会

日時: 1992年11月24日(火) 19:00~22:00

場所: 現在調整中

・全国ブロック幹事会

日時: 1992年11月25日(水) 10:00~12:30

場所: 現在調整中

以上詳細は別紙参照

代表幹事会から

菅 孝能

(株)山手総合計画
研究所)

9月9日、10月2日に代表幹事会を開催しました。主要な相談・決定事項は以下の通りです。

①委員会活動計画

広報委員会、事業委員会、研修・研究委員会の今年度活動計画(委員の確定、活動計画、予算計画)を11月6日の代表幹事会までに決定するよう準備を進めています。

②ブロック活動費配分法

・ブロック活動を活性化するための活動費配分を以下のように決め、各ブロック幹事に通知しました。各ブロックでの有効活用をお願いします。
・総額270万円(過日総会決定事項。うち80%を各ブロックに配分。20%は調整及び予備費として留保。)

北海道	15万円	東北	10万円
北陸	10万円	東関東	20万円
南関東	30万円	西関東	35万円
北関東	20万円	中部	20万円
関西	30万円	中国	10万円
四国	10万円	九州	15万円

・各ブロックにおいて活動計画、予算計画を作成し、代表幹事会に送付してください。代表幹事会で確認の上、各ブロックに上記金額を送金します。

・ブロックで開催する会合等の費用等に活用してください。平成5年5月末日までに代表幹事会に活動及び会計の報告をして下さい。

③会費について

入会初年度の扱いが不明確でしたので、次のように四半期毎の差額制としました。

6、7、8月入会者 2万円

9、10、11月入会者 1.5万円

12、1、2月入会者 1万円

3、4、5月入会者 0.5万円

尚、92年4月、5月の入会者に関しては92年度会費(1992.6~1993.5会費)の扱いとします。

関西ブロックの活動状況

関西ブロックでは毎月〈都市環境デザイン・セミナー〉を開催しています。最近のプログラムとしては、9月〈都市環境デザインからみた再開発：北条蓮英〉、10月〈集まって住む形をデザインする：江川直樹〉があります。セミナーについては、下記宛てお問い合わせください。

都市環境デザイン会議・関西ブロック事務局
(株)ヘッズ 永井宛て Fax:06-364-2605

お知らせ



①パンフレット『都市環境デザイン—関西はいま—』を販売いたします。

・これは、今年7月10日、11日、12日に関西ブロック主催で行われました“都市環境デザインフォーラム・関西”の内容を紹介したものです。

A4版133頁の体裁で、プロジェクト展示に参加した会員50名の作品が、写真と詳しい説明とともに掲載されています。

・1部2,000円(送料込み)で129部をお頒けします。お申込み先着102名様には5月23日の臨時総会時に行いました、“92都市環境デザインモニター・プレメッセ”の『実施結果報告書』(経済調査会編)を無料で差し上げます。

・ご希望の方は事務局までFax(03-5420-5996)でお申込みください。

②名簿訂正のお願い

追加版名簿中、4頁記載の有岡孝氏の専門分野に誤りがありました。下記のように訂正するとともに、謹んでお詫び申し上げます。

正：都市・建築 ← 誤：新聞記者

③新会員を紹介いたします。

1992年6月1日以降9月30日までの入会者は右の通りです。(入会順、敬称略。)9月30日現在の会員数は341名です。

④住所変更等の異動について

次号 JUDI NEWS から住所変更等の異動を掲載いたします。なお、すでに変更のあった方(現在の名簿記載事項に変更のある方)で掲載ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

新会員紹介

氏名	勤務先
安田 丑作	神戸大学工学部建築学科
吉野 国夫	(株)ダン計画研究所
林 悦子	(株)イー・デザインオフィス
小島 篤	(有)都市デザイン研究所
木村健一郎	(株)大林組
大村 正幸	日本屋外造形(株)
北条 蓮英	(株)アーバン・プランニング研究所
三原 久徳	ランドブレイン(株)
津田 勇夫	(株)イーエス計画室
森重 匡世	(株)フォーエム
西垣 栄	(株)計画技術研究所
赤瀬 達三	黎デザイン(株)
荒川 俊介	(株)アルテップ
荒川 豊彦	鹿島建設(株)
守屋 弓雄	(株)M I A 建築デザイン研究所
広野 敏生	(株)クリエイト大阪
北村 邦夫	(株)住信基礎研究所
狩野 忠正	(株)竹中工務店大阪本店
永野 和邦	(株)ラウム計画設計研究所
横山 裕	(株)グリーンシグマ
西端 義信	アーバンプラン研究所
松田 一二	(株)クリエイト大阪
小林 治人	(株)東京ランドスケープ研究所
金澤 成保	佐賀大学理工学部建築工学科
山田 伸次	日本工営(株)
安部 桂子	(株)環境施設計画
折田 知子	(有)ストローク
森 義純	(株)コア建築都市設計事務所
森本 幸裕	京都造形芸術大学
今北 紘一	今北デザイン研究所
蓑茂寿太郎	東京農業大学造園学科
服部 紀和	(株)竹中工務店設計部
長崎駿二郎	(株)竹中工務店設計部
小林 忠夫	(株)竹中工務店設計部
松山 茂	(株)都市空間研究所
中西 暁	(株)オウ環境設計事務所

広報・出版委員会

井口勝文	上野 泰
江川直樹	大塚守康
榊原和彦	佐野 寛
菅 孝能	近田玲子
嶋海邦碩	林 泰義

編集後記

今回のJUDI NEWS は関西で編集しました。関西ブロックの“元気”を読み取っていただけただけでしょうか？

なお、編集にあたって、多くの方々の御協力を得たのですが、少し発行が遅れました。お詫びいたします。 [辻井道弘]

JUDI
NEWS

008

October
1992